# JEITA スマートホーム 将来ビジョン

## 2020年5月

一般社団法人 電子情報技術産業協会 スマートホーム部会 将来ビジョン検討会

(協力:コネクティッドホーム アライアンス)



### はじめに

わたしたちの「暮らし・日々の営み」を改めて見直すと「人と人との助け合い」で成り立っていることに気が付く。

お腹が空く人のために料理を振る舞う、 体の具合が悪い人のために診断・治療をする、 快適な生活をかなえるために水・ガス・電気を届ける、 介護が必要な人の手助けをする...

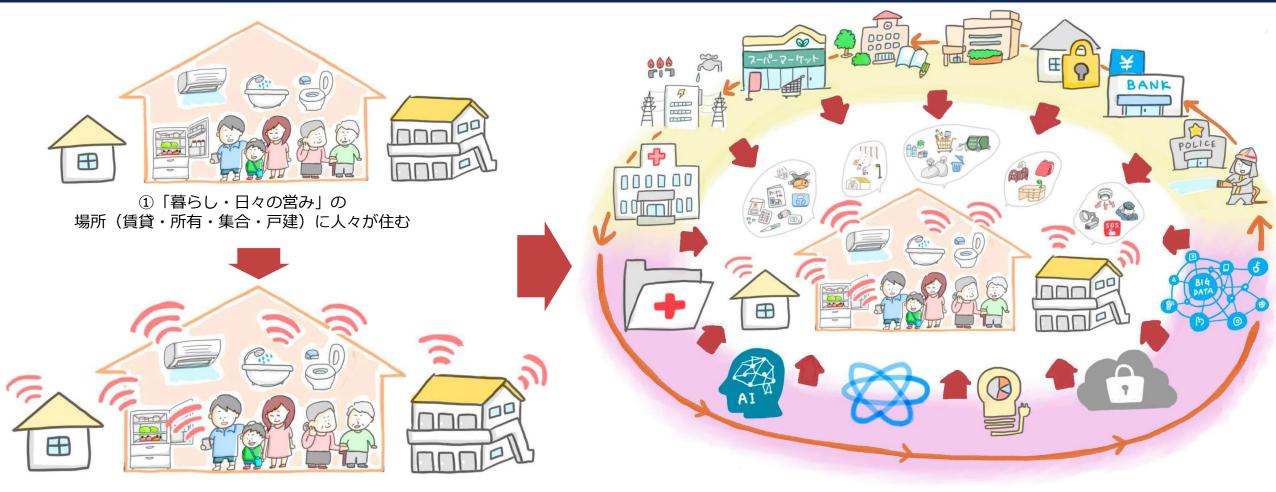
助ける人が家族や親戚の場合もあれば、事業者がサービスとして提供する場合もあるが、 人々は助け合って生きており、その集団が社会となる。

より良い社会を作るために大切なことは、個人・家族の日々の暮らしの基盤である「家」を起点に、 組織・コミュニティ、社会へと広げていく考え方である。

現在、人々の「助け合い(サービス)」をテクノロジを使って革新することが可能な時代を迎えている。 わたしたちが目指したい「スマートホーム」は、フィジカルとサイバーの両方を使って人々の暮らしに 安心・安全・快適をもたらすとともに、個人・家族と近隣コミュニティとの繋がりや、 自分だけでなく、他人の快適さをも追求し、社会全体の最適化を実現することである。

このような認識に基づいて、Society5.0実現に不可欠な要素である「スマートホーム」の将来ビジョンを示す

### JEITAが考える「スマートホーム」とは?



②人々の「暮らし・日々の営み」が 宅内外に<u>ネットワークでつながる</u> ③人々の「暮らし・日々の営み」がネットワークにつながり、 更に<u>「社会システムサービス(社会インフラ・各種サービス)」とつながる</u>

「スマートホーム(暮らし・日々の営み)」は、社会システムサービス(社会インフラ・各種サービス)とつながって、 人々に安心・安全・快適を提供しつつ、社会の最適化を実現するもの。

### 人々に安心・安全・快適を提供する「スマートホーム」

①人々の「暮らし・日々の営み」は 安心・安全・快適をかなえるために 【見守り・セキュリティ】 【医療】 【食料・資源】 などの様々な社会システムサービスを必要とする

【見守り・セキュリティ】



サービスを受けるための 適切な情報提供 (loT、センサ、 各種サービス経由など)

②社会システムサービスを 享受するために必要な情報を提供



【医療】

③社会システムサービスは 提供された情報をもとに、 フィジカルとサイバーの融合 やサービスプレイヤ同士の連 携により価値を提供する

など・・

【食料・資源】

「スマートホーム(暮らし・日々の営み)」の情報により、様々なサービスチェーンが機能し、人々に安心・安全・快適をもたらす。

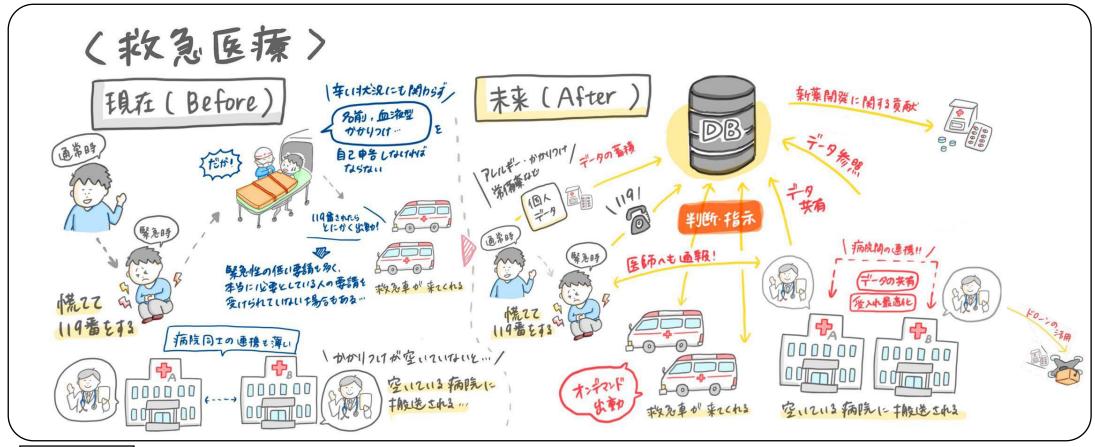


### 社会の最適化を実現する「スマートホーム」



スマートホーム/サービスから得られた情報を適切な形で共有し、社会の最適化を実現する

### スマートホームで変革する社会システムサービス ① 救急医療



### 現在の課題

- ▶個人の健康・医療データが病院のカルテや処方箋・お薬手帳にのみ保存されており、すぐに参照できない。 よって、緊急時に救急車やヘルパーがやってきても患者自らが医療情報(かかりつけ医、常飲薬など)を伝えなければならない。
- ▶緊急性の具合が患者やその家族の自己判断に紐づくので、救急車・救急医療が本当に必要な人に行き届かない。
- ▶都市部≒離島など地域間の医療格差が存在する。

### 目指すべき社会

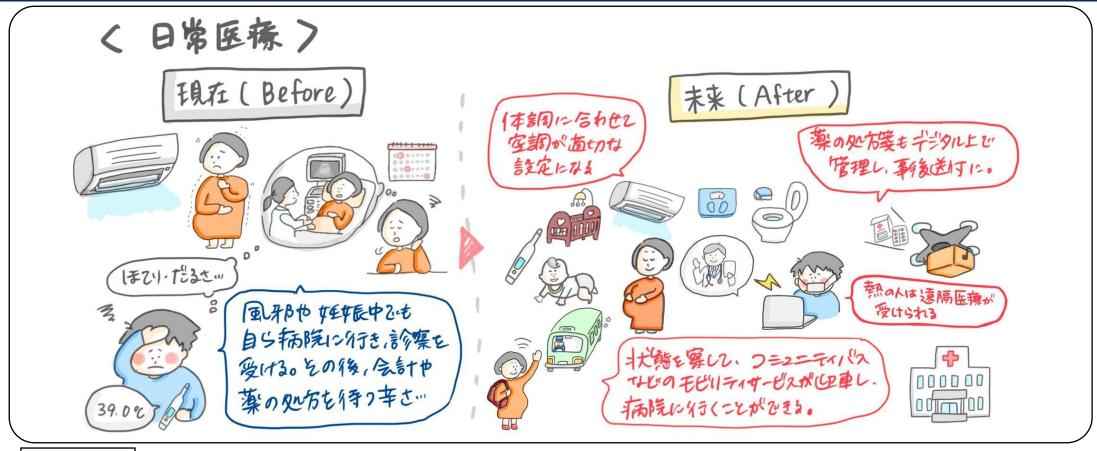
▷個人の健康・医療情報、救急車や病院の稼働状況など医療にまつわる情報を統合的に集め、最適化することにより、 いのちを守るのに最適な環境が整えられる。

#### 必要なアクション

▷緊急時に自分・家族の身を守るために必要になる健康・医療情報を、生活者が提供しやすくなる環境をフィジカル・サイバー双方の サービスを用いて作り上げる



### スマートホームで変革する社会システムサービス ② 日常医療



### 現在の課題

- ▶病院に行く必要がある状態(風邪、妊婦の定期検診)の時に、辛くても自分で病院に行かなければいけない。
- ▶病院では診察待ち・会計・処方箋を薬とするまで待たなければならない。
- ▶風邪などの体調不良、そして特に妊娠中の体調不良であったとしても空調などを自分で調整しなければいけない。

### 目指すべき社会

▶体調にあわせて家庭内での空調、外部のモビリティサービスへの呼び出しなどが適切に行われる。

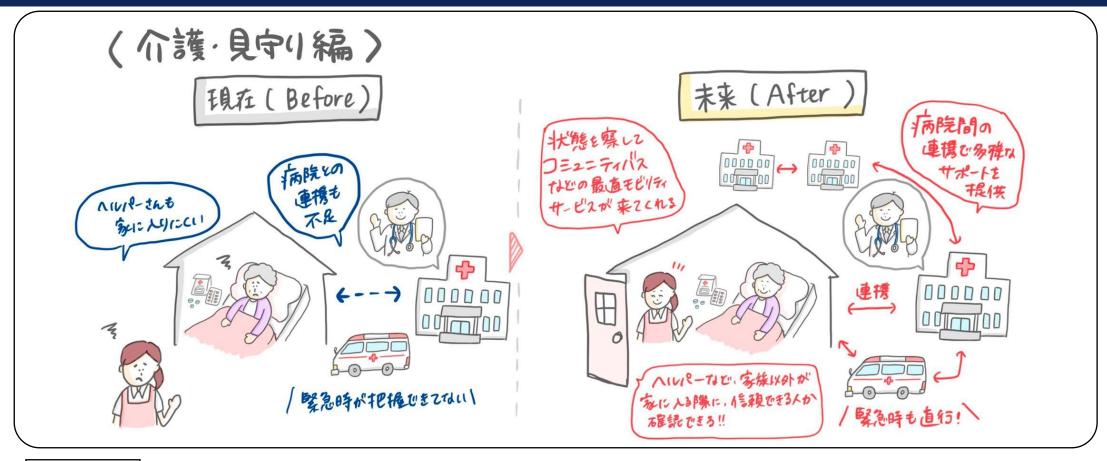
▷病院での待ち時間を削減し、十分な休息を取れる状態が作れる。

### 必要なアクション

▶自分の体調にあわせて家庭内サービス・外部サービスが最適化されるように、自身の体調データを把握できる状態にする。

▷病院や薬局では、患者の来院数・移動時間などを事前に把握して最適な診察ができるように外部サービスデータと連携をする。

### スマートホームで変革する社会システムサービス ③ 介護・見守り



#### 現在の課題

- ▶病院と個人宅の連携が不足。家庭で医療・介護を受ける側および家族が、緊急時に対して常に不安を抱いている。
- ▶ヘルパー・介護事業者など「他人」が家に入ることに対して、不安があり、介護が孤立化する。

### 目指すべき社会

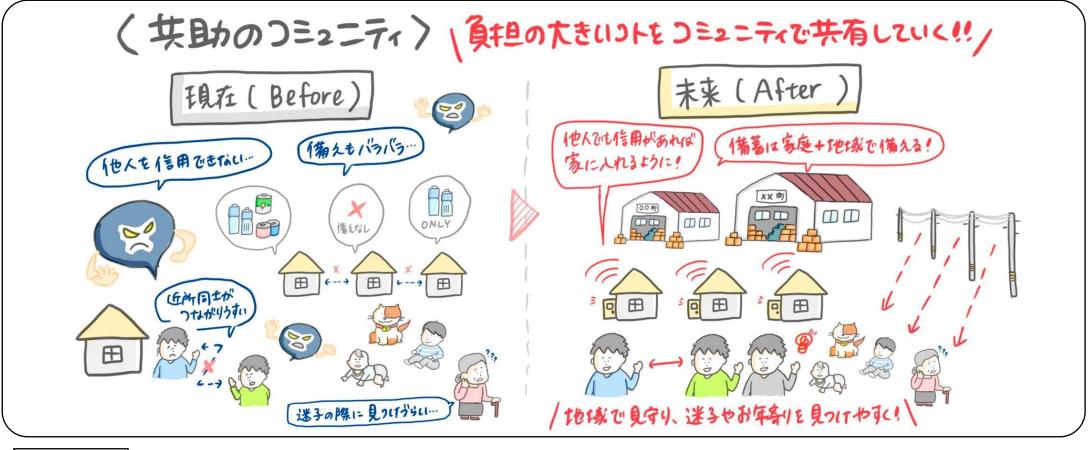
▷在宅医療・介護であったとしても病院・医師から見守ってもらえているような安心感が得られる。

▷ヘルパー・介護事業者の身元がわかり、安心して「他人」を家に受け入れ、医療・介護を受ける方と家族の心的負担を軽減できる。

### 必要なアクション

▷日常生活の延長上で医療・介護を在宅で受けられるように、家族だけではなくコミュニティで安心して見守りができるようなサービス連携 を考える

### スマートホームで変革する社会システムサービス ④ コミュニティ



#### 現在の課題

- ▶隣近所とのつながりが薄く、他人が「信用・信頼できない」状況が大都市圏を中心に起きている。
- ▶他人とのつながりが薄い分、有事への備えも家族単位で行い不必要な買い占めがおきる。
- ▶近所で迷子になっても、探してもらえない不安がある。

#### 目指すべき社会

▷信用できる人がわかり、隣近所が居ることやコミュニティがあるからこそ不安を軽減できる社会を目指す。

▷ 「信頼できること/トラスト」の重要性が増す社会を目指す。

#### 必要なアクション

- ▷ 「信用・信頼」をセンサや情報などで見える化する等、サービスの信頼性確保を行う。
- ▷有事の際でも共助によって、生活を維持(電気・食料・物資等の確保)できるような環境確保や情報共有体制を構築する。

### スマートホームで変革する社会システムサービス ⑤ 資源の有効活用



#### 現在の課題

- ▶各家庭ごとの購買量・ゴミ排出量が把握できないため、非効率なゴミ回収が自治体ごとに行われている。
- ▶小売店等が過剰な在庫を持つことによるフードロス等の無駄が生じている。

### 目指すべき社会

▷世帯規模や各家庭ごとのイベント(誕生会など)にあわせた最適なゴミ回収ができる社会

▷各家庭の購買量と小売店の在庫量が適正配分され、無駄が少ない社会。

#### 必要なアクション

▷各家庭ごとの買い物や冷蔵庫などへの収納のアクションから、地域のゴミ回収サイクルや小売店等の必要備蓄量を把握する。